

参入市町村名	石川県七尾市	
法人等名（業態名）	株式会社スギヨ(水産加工品製造業)	
参入の種別	特定法人貸付事業(平成 19 年 5 月)	
農業部門の概要	栽培作物	野菜(タマネギ、キャベツ、ニンジン、ジャガイモ等)
	経営規模	26ha(26 年には 36ha 増え 62ha、5 年後 100ha を目標)
	雇用者数	役員 4 名、社員 18 名+臨時雇用
地域の概要	<p>【地域の農業の特徴】 土地利用型農業を中心として農業の担い手不足の動きが顕著にみられる。これまで農地の流動化が進みにくかったが、今後高齢化の進行がさらに進めば、機械更新時や世代交代等を契機に流動化が進む可能性もある。</p> <p>【農業構造】 市内の遊休農地面積は 500ha と全農地の 14% を占め、農業者の高齢化率は 70% を超えている。各集落の農業者数は減少の一途。</p> <p>【自治体としての農業への取り組み】 七尾市では耕作放棄地率と高齢化率が特に高い旧能登島町西島地域を遊休農地対策のモデル地区に指定し事業実施し、その実績をもとに他の地域への拡大を図り、26 年から新たな地域にも参入、拡大を図る。</p>	
参入の動機、きっかけ、参入の経過など	<p>古くから水産練り製品(かまぼこ)の製造を行っているが、商品の差別化を図るとともに、地域経済の活性化、循環型社会への対応を目指している。</p> <p>(1)地産地消をコンセプトとした商品開発(1 次×2 次×3 次産業=6 次産業化)、(2)安心・安全、健康な自社野菜の調達、(3)栽培方法・品種の探求による、優位性の確立、(4)地元の活性化と雇用促進による貢献、(5)能登全域のネットワーク化によるブランド化推進と地域経済活性化、(6)すり身、野菜の残渣等を堆肥化し活用する循環型社会への対応</p>	
農業経営（農業事業）の内容	野菜栽培(23ha、キャベツ 8ha、タマネギ 5ha、ニンジン 5ha、ジャガイモ 2ha、)。生産した野菜の 70% は自社製品の原料として供給している。	
農産物の販売状況	直近生産物の換算額は 7000 万円程度に相当。これに対し投資額は 5000 万円くらい。(ビニールハウス、直売所等の整備も含む)	
農業参入にあたって苦労したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「わいわい里づくり能登島ネット」(能登島地区でスギヨが参入した地区の地権者等とスギヨで構成、地域活性化を目指したイベントや景観整備等に取り組み)を通じて地元との密接な連携のもと進めており、参入に大きな問題はなかった。 ・ 県や市の働きかけにより農地のあっせんを受けたが、4 カ所のうち、小面積のほ場もあり、作業効率化が図りにくい。 ・ 農業生産に関しては技術やノウハウがなく、自然条件に大きく左右されるため、生産計画がたてづらい面もあったが、経験を活かし現在対応。 ・ また農繁期と農閑期との労働量の格差が大きく、本社および近隣の農家に支援を求めることもある。 	
現在の課題、問題点	水の確保と灌水対策が問題。(用水の未整備、用水パイプの故障等で人海戦術で灌水を行っていたが、耕作放棄地再生利用推進事業(H20 補正)で用水パイプを補修。また、農業生産法人となり、農地を取得後井戸の整備を行い、問題解決を進めている)	

<p>農業参入で良かったと思う点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の遊休農地の解消 ・食品作業と農業を融合させた新たな循環型の企業モデル ・自社農園野菜から伝わる安心安全食品のイメージ ・規格外野菜でも利用できる ・地域との交流
<p>今後の展開方向、行政や関係機関に望むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所によっては周辺農地を確保し集約化を図っていくとともに、生産のメインは能登島、穴水、志賀と3箇所となる。 ・ 5年後には100ha程度まで経営規模の拡大を図るほか、平成24年3月には農業部門を分社化して農業生産法人「スギヨファーム」を立ち上げた。土地取得が農業生産法人に限られることで、短期間で大きく農地の取得が困難(資金的面)。また、L 資金等優遇措置はあるものの、実際に借りられる金額には限度があり、こうした面での緩和措置が講じられればと思う。